

# 昭和の映画を語る会

街に映画館があったころ



# なぜ昭和の映画なの？

- ◆ 昭和時代は、映画が娯楽の王様だった。
- ◆ 昭和は、映画の青春時代だった。
- ◆ 映画の作り手側の監督、俳優、観る側の観客も、映画を映す側の映画館も映画を宣伝する映画看板も熱かった。

1958年(昭和33年)日本の映画人口12億人

- ◆ 話題の映画の話が、共通言語になり得た。
- ◆ 若い時に見た映画は、心の栄養剤になっている。

涙あり、笑いあり  
私たちに  
感動を与えてくれた  
街の映画館は  
娯楽の殿堂であり  
文化の発信基地  
でもあった。



# 私と映画のかかわり



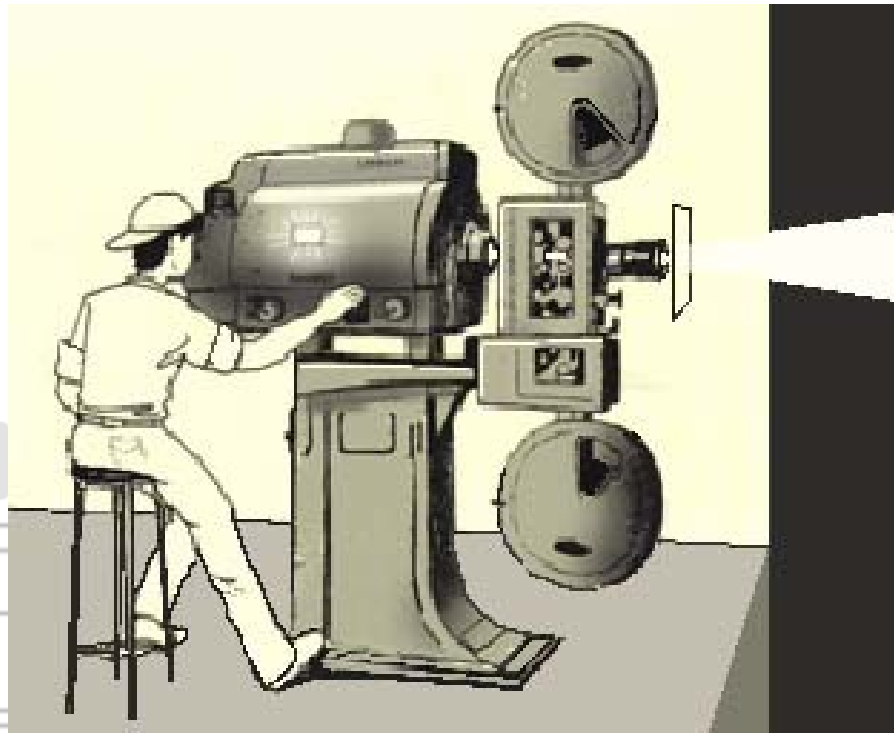


# 映画館が遊び場だった。

学校では  
教えてもらえなかった  
多くのことを  
映画から学んだ。



# 二十四の瞳



中学1年生の時  
先生が映画館まで  
生徒を引率してきた。  
映画が終わったら  
だれもが感動して  
涙を流していた。

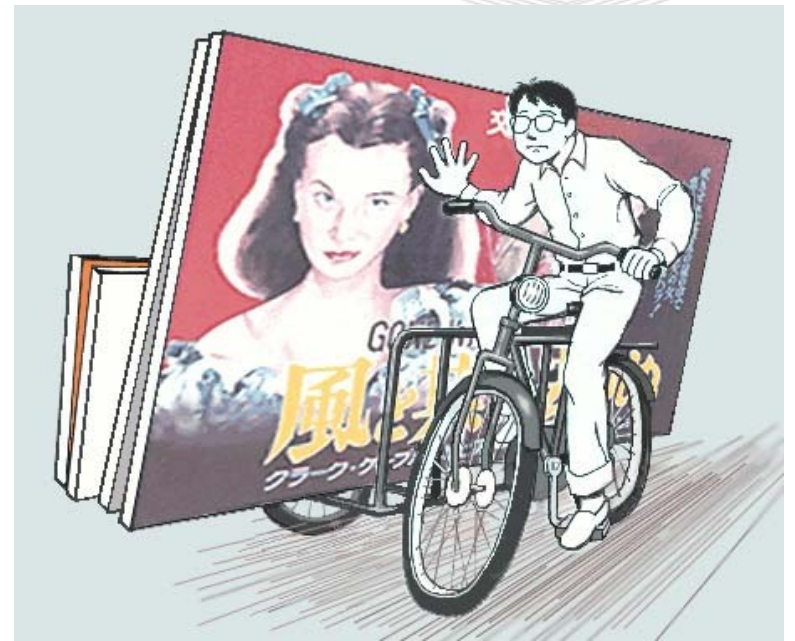
その時私は映写室で  
映画を映していた。

# 映画看板の修行時代

東京宣伝美術社

新宿は歌舞伎町  
ミラノ座、新宿劇場、地球座  
新宿座、コマ劇場……  
主だった映画館の  
映画看板を手がけていた  
会社で、20歳から3年間  
映画看板の修行をした。







# 20世紀の宝物を探そう

手塚治虫と昭和漫画史 (副読本)

昭和文化史・のぞき窓 (副読本)

20世紀の館 (2000年10月にホームページを開設)

1940年～2000年

出来事・流行語・音楽・邦画・洋画・テレビ・出版・雑誌

少年漫画・少女漫画・成人漫画・手塚治虫・死んだ人・生まれた人  
エッセイ「映画の時代」を掲載する



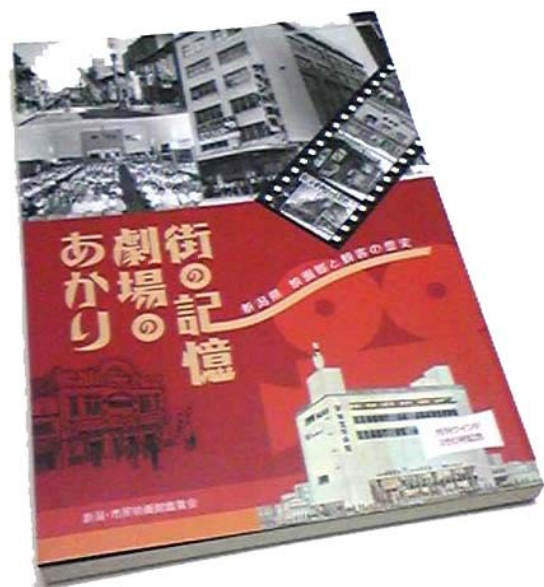
映画館の息子として生まれ、映画の全盛時代に映画看板の修行時代を過ごした。そんな特異な私の体験やエピソードを「映画の時代」と題し、エッセイとして綴った。

私が定年前の2000年10月に開設したホームページ「20世紀の館」にアップロードしたので見ていただきたい。



# 新潟市街の映画館 (消滅)





「映画は20世紀に誕生した  
最大のそして最後の総合芸術(娯楽)」  
なのだから、既存の芸術と地域の文化活動を  
取り上げて、映画に対する新しいアプローチを  
試みなければならない。

映画館100年の歴史は  
映画館だけの歴史ではありません。  
その街 その人たちの営み  
その土地の記憶等が  
からみあって存在しています。

シネウインド 齋藤正行